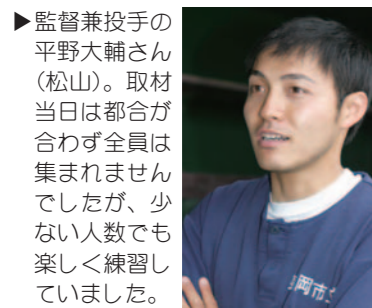




▲抜群のチームワークで東日本軟式野球大会を制覇



▶監督兼投手の平野大輔さん(松山)。取材当日は都合が合わず全員は集まらなかったが、少ない人数でも楽しく練習していました。

「見た目はかわいいけど実際の試合をしたら強い、ピンクのキングコングみたいなイメージかな。」とチーム名の由来を話す、松山を拠点とする軟式野球クラブチーム「PINK KONG」(ピンクコング)の皆さん。同チームは、五月に千葉県で開催された第二十九回東日本軟式野球大会(一部)で、みごと優勝しました。

メンバーは、松山、鹿島台、三本木のほか、栗原市や美里町から集まった十八人で、結成三年目の若いチームです。古川工業高校硬式野球部の出身者が大半で、その仲間での県大会の出場をきっかけに現在のチームが結成されました。

チームのテーマは、野球を楽しむこと。「もちろん勝たなければ楽しくないけれど、ピリピリした空気は全然ないですね。笑わない試合はないくらいで。野球のセンスより、笑いのセンスの方があるかも。」と、メンバーは笑顔で話します。試合中心にスケジュールを組んでいるので、練習は少ない人数で行うことが多いそうですが、なごやかな雰囲気だからこそ、いつもどおりの力を発揮して好結果につながるのでしよう。六月に開催された高松宮杯県大会でも優勝した、チームワーク抜群の若武者たち。次は東北大会に出場し、全国大会を目指します。「どんな大会に出場しても、いつもと変わらず仲間と野球を楽しみたいです。」と、監督兼投手の平野さんは語ってくれました。

一緒に野球をしたい仲間は歓迎で、選手やマネージャーも募集中です。名前やユニフォームにピンクを使うチームがほとんどいないので、外見でもプレイでも存在がひととき目立つ「PINK KONG」。練習でも試合でも、いつも笑顔があふれています。



軟式野球チーム PINK KONG (松山)

野球も笑いもセンス抜群！  
各地で巻き起こせピンク旋風

このコーナーでは、誰かにすすめてくれる伝統的工芸品や物産など、「大崎市自慢の逸品」を毎月紹介していきます。



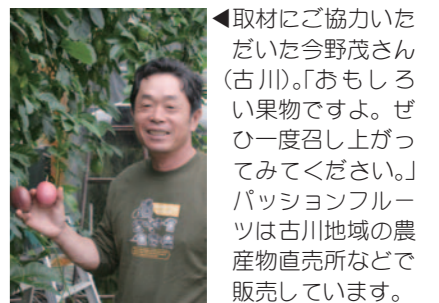
古川地域発

一口食べれば口中に広がる  
トロピカルな甘酸っぱさ

【パッションフルーツ】



▲パッションフルーツは、花の形が時計に似ていることから「クタモトケイソウ」とも呼ばれる南米原産の果樹。βカロテンが豊富で、老化防止や視力の保持に役立つと言われていて、また、カリウムも多く含まれているので、高血圧や心筋梗塞の予防も期待できるそうです。



▶取材にご協力いただいた今野茂さん(古川)。「おもしろい果物ですよ。ぜひ一度召し上がってみてください。」パッションフルーツは古川地域の農産物直売所などで販売しています。

南国をイメージさせるさわやかな濃厚な香り。一口口に入ればトロピカルな甘酸っぱさが広がります。

古川地域敷玉地区で農業を営む今野茂さんのシソ栽培のビニールハウスでは、南米原産のパッションフルーツの木が大きくつるを伸ばし、たくさんの実をたわわに実らせています。

今野さんがパッションフルーツの栽培を始めたのは今から七年程前のこと。シソ栽培のハウスを活用して何か面白いものを栽培できないかと思っていたところ、知人から勧められたのがこのパッションフルーツでした。

「シソの最盛期には夜でもハウスに電気をつけていますから原産地の日照時間に近いのでしようか。ハウスの温度も栽培条件としては合っていたんでしょね。」と話す今野さん、鈴なりに実ったパッションフルーツは一

年中収穫することができず。収穫してはしばらくたつと果皮にシワが寄ってきます。果皮がシワシワになって香りが強くなったら食べごろです。半分は切って種と果汁をそのままスプーンですくって食べるほかに、ジュースやフルーツソースにしてもおいしく食べられます。独特の香りが強いので芳香剤としてしばらく部屋に飾って楽しむ人もいます。

毎年、古川地域の認定農業者連絡協議会が主催している地場産食材を使った料理を楽しむ「古川産直厨房」でも、ムースシロップやデザートなどになって登場し、好評を得ています。

「古川で南国の果物なんて珍しいですよ」と話す今野さん。この夏は古川産トロピカルフルーツを味わいながら、南の島に思いをはせてみてはいかがでしょうか。